

MACHINE TIME EXECUTIONREPORT (2005-2-2 CYCLE)

Experimental Group	T 5 7 2	Reporter	仁藤 修
Scheduled Period and Shift	2005/6/22- 7/1 20 shifts	Main, Sub, Para	π 2, Main
<p>Experimenters 仁藤修、杉山晃、藤井恵介、松田武、小林誠、加藤幸弘、渡部隆史、黒岩洋敏、R.D.Settles、P.Colas、V.Lepeltier、T.Zerguerras、K.Boudjemline、D.Arogancia、H.Gooc.Jr、R.L.Reserva 他</p>			
<p>SUMMARY OF EXECUTION AND RESULTS</p> <p>本ビームテストは本年4月のT573に続くもので、リニアコライダーのためのTPC開発研究の一環として行ったものである。位置分解能等の精度の向上を目的に、読み出し端板を従来のMWPCから、開発の進んでいるMPGD読み出しに換えて磁場中でビームテストを行ってきた。TPCのビームテストではソレノイドの側面からビームを入射する必要がある、今回もKEK低温グループの協力を得て、JACEEマグネットをビームラインに設置した。今回はMicromegasの開発を精力的に進めているSaclay、Orsayグループらと共同で、彼らのMicromegasをTPC読み出しに用い、準備段階から彼らの参加も得て測定を行った。磁場1、0.5、0Tの条件下で、Micromegasの測定条件を変え、また使用混合ガスの成分も途中で1回変更してデータを収集した。多くの有効なデータを得ることができたが、種々課題が残されており、グループとして秋のビームテストについても申請中である。</p>			
<p>EXECUTED MACHINE TIME, BEAM CONDITION, DOWN TIME etc.</p> <p>4GeV/cの負ビームを主に引き出した。ビームが何度かダウンしたが、測定条件の変更などに利用して全体として測定はスムーズに行うことができた。Kicker downにより、最後の3時間ビームが出ないまま終了し、予定していたデータ収集の一部ができなかった。</p>			
<p>COMMENTS</p> <p>非常に多くのスタッフ参加者があり、6名の学生の参加も得られて、比較的余裕をもって無事実験を終了することができた。</p>			